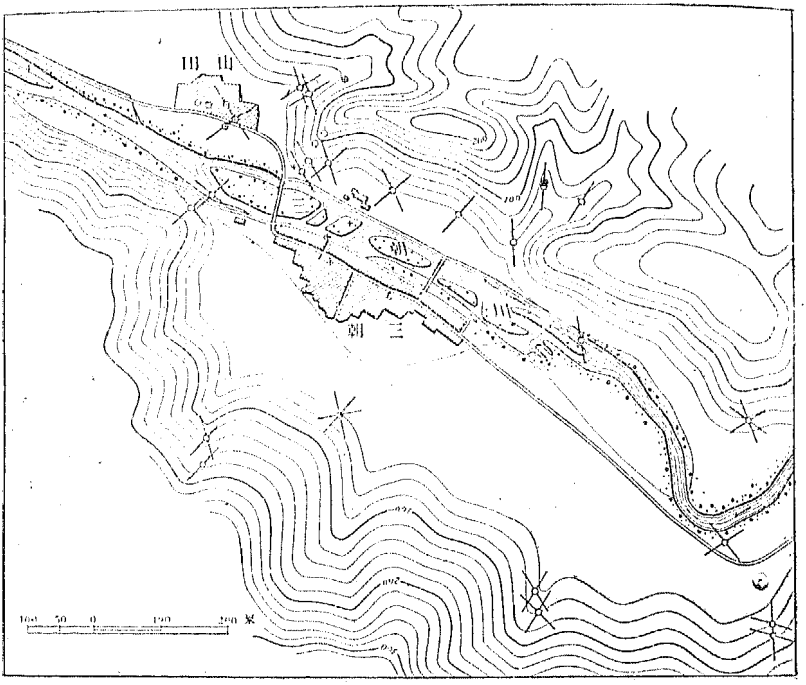
三朝溫泉地帶に於ける泉源の配置について

松原厚

鳥取縣東伯郡三朝村の溫泉地は、山陰線上井驛を距ること東南二里の處にあり、この間定期に自働車を通ず。この地の溫泉は醫療上の効果の驗著なることにて古來中國一帶に著名なりしが、大正三年に藥學博士石津利作氏が本地の溫泉の發散物の放射能作性の著大なることを明らかにせられし以來四季の浴客激增し、當今に於ては可なり設備の完全なる旅館も多くなり、村營のラヂウム療養所の如き種々の新式設備を施せる浴場も造られたり。溫泉地帶は三朝川の兩岸に跨り、地磐は概して花崗岩なれば河水淸く風光明媚なり。

余の昨夏こゝに遊びし時、自ら徒然を慰むる爲めに四周の山谷を巡り、鑛物の採集を試みたることあり、この時附近一帶の地磐に現はれたる割れ目の方向にある一定の秩序の存することを發見しこの割れ目の方向と泉源の配置との間にも亦離る可らざる關係の存することを推測し得たり、勿論この研究は未だ完結せるものにはあらざれども、學團の同人に迫られ遂に余が豫想せる所を下の如き豫報の形として發表するの已むなきに至れり。



第一圖

本地帶に於ける花崗岩は一般に黑雲母花崗岩に屬し、其噴出の後割れ目に沿ひて屢々後續岩漿を迸出したるものにして、單に黑雲母花崗岩の細粒なるものよりして白御影に近き石質のものに至る種々の階梯の岩脈を貫通す、これらの岩脈の方向は又一般に花崗岩磐に現はるゝ裂罅の方向と其走向を同うするが故に假りに此等の方向を同一視して總て之を割れ目の方向と見做したり尤も一方向に利く割れ目の系統は通常之と相交はる方向を有する他の系統と相伴ふものなることは周知のことなるが本地に於ても明らかにこの事實を目擊し得べし。

余が實測せし裂罅線の走向を圖上に記入せるものは第一圖の如し、これによりて見るに三朝村の入口に聳ゆる金比羅山並に其對岸の山に於ては概して

A、北二十度乃至三十度西

B、北五十度乃至六十度東

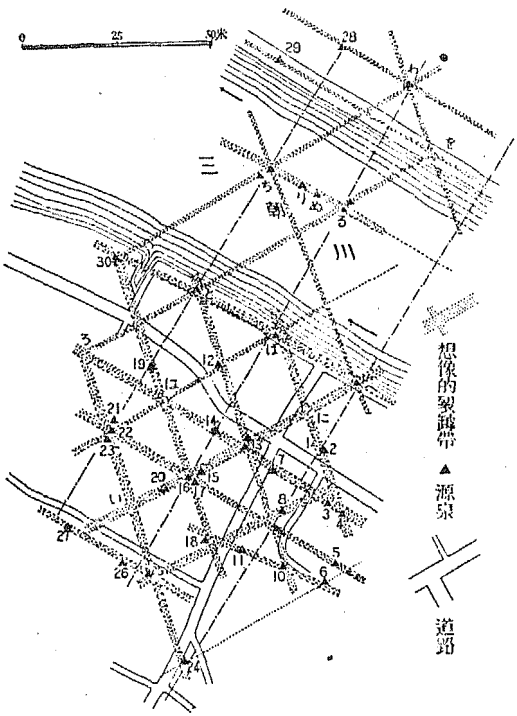
の二つの裂罅線系統の發達せることを見る、三朝村落の南北の山に於ける測定の結果によれば、前記Bの系統は約北四十度乃至五十度東の方向に遷移する傾向あれども、斯の如き變化はこの種の測定に於ては之を無視することを得べし　又外谷の出口及砂原の對岸等に於て見らるゝ割れ目には明らかに河流の方向に平行せるもの卽ち

C、北五十度乃至六十度西

の系統の發達著し。

三朝村落附近に於ける泉源の配置圖は、地質調査所報告第八十一號に收められたる山根農商務技師の調査報告に基き第二圖に之を表せり、圖中(ほ)、(へ)、(と)、(ち)、(り)、(ぬ)、(る)、(を)、(わ)、等の泉源は余が新たに記入したるものなり、(わ)は最近に開掘せられし泉源にして之と既存の(28)とを連ぬる方向は前記C系統の方向にして金比羅山の麓に於て嘗て少量の噴泉を得たりし地點はこの方向の延長に當れり。(を)及び(29)は近年築造せられし堤防内より湧出するものなり、

(ち)、(り)、(ぬ)、(る)等は、或る徒然の日余が自ら鍬を執りて川の中州を掘り歩きて捜し求めたる泉源なり、(へ)、(ほ)、(と)等は近年築造せられし堤防の中より湧出するものにして何れも古くより知られたるものなり、(30)の位置は山根技師の配置に於けるとは少しく異れども、之も堤防工事の確實に其位置を知り得たるものにして今は堤防内に埋められ居れども之よりして引湯をなせり、湧出量も多く溫度も高し、其他の泉源の位置は山根技師の配置圖を其儘寫したるものにして更々改竄を加へたるものにはあらず。



第二圖　三朝村に於ける泉源の配置を示す

今試みに前記三種の裂罅線系統に平行なる線を以て各泉源の位置を連ぬるときは第二圖に示すが如くなりて大體に於て都合よくこれ等を想像的裂罅線の系統の上に持來すことを得べし、加之(13)(藥師堂の下底)(16)(ラヂウム療

養所）（22）の諸泉源の如き著大なるものは皆重要裂罅帶の交叉點に位することゝなる、勿論岩石の割れ目のことなれば左まで規則正しく行き渡れるものにはあらざる可けれども第二圖に示すが如き小區域のみに付いて考ふる場合には大體に於て裂罅線の系統が整然たる網目をなすものと想定するも大なる誤には非るべし。

さて斯の如き想像的裂罅線が地下に實在するものとせば、現に未だ開掘せられざる地點に於て著しき泉源を得べき場所少からず、例へば（い）（ろ）（は）（に）等の如き裂罅帶交叉點の如きはもし之を開掘すとせば大に有望なる場所ならんと思はる、尤もこれ等を濫掘するとせば既存の泉源の湧出量を減却する憂あるべければ、これを實行するに當りては多大の考慮を要するは勿論なり。

河床及び堤防より湧出しつゝある溫泉の量は鮮少にあらず、例へば（ち）の泉源より湧出しつゝあるものゝ如きは實に惜しき限りなれども現今は唯徒らに兒童の遊戯場となるに過きず。泉源（30）と（ち）を連ぬる方向は前記B系の裂罅線の方向と一致せり、この線を延長して泉源（28）を通し河流に平行せるC系の裂罅線と相交らしむれば、其交點（わ）は（る）（ほ）（14）（16）を連ぬる直線上に來る、最近にこの地點が開掘せられしが八十尺にして既に攝氏五十七度の溫泉を出せり。

山田區域の泉源とラヂウム療養所とを貫ぬる一線の方向は約北三十度西に當り前記A系に屬すべき裂罅線の方向と一致す（第一圖參照）又山田の西方河床中に湧出しつゝあるものは可なり著大なる泉源なるが之は第二圖の（ち）（り）（ぬ）（る）を連ぬるC系の裂罅線の上に位するものゝ如し。

株湯及湯谷の泉源と三朝區域の泉源との關係については未だ明確なる解決を得る能はず。